

一次の文章を読んで後の問いに答えなさい。答えは、問九以外は黄色の解答用紙に書きなさい。問九の答えは、**国語三**の解答らんに書きなさい。字数の指定のある問題は、句読点も一字と数えます。

私は野原を歩いたり、山を歩いたりしています時に、名前を知らない植物などによく出会います。名前を知らないものの方が多いのですが、そういう時に、取って来ることが出来る場合には、なるべくその植物の特徴のはっきりしたものを摘むなり、あるいは根から掘って大切に持ちかえりまして、植物図鑑だの、その他の私が持っている書物をたよりにしらべてみます。

ところが持ちかえることのできない場合が、**a** 往往にしている訳です。例えばそれが大きな木であるとか、掘ることを禁じられている高山植物であるとか、あるいは町を歩いている時に見つけたよその家の庭に生えているものであるとか、むしろ**1** それを持ちかえることのできないことの方が多いかも知れません。その時は仕方ありませんから、自分の眼で、それをよく見て、覚えて帰るより方法はありません。あまり不思議なものならば、その特徴をノートに書いておくことがあります。ところがそうして特徴をノートに書いてきまして、いざ植物図鑑だの他の書物でしらべ出しますと、すぐ**2** それと分かることは実に少ないのでして、大概の時は、何か見落としています。花の花弁だの雌しべ雄しべの数などは大体覚えていられますけれども、どこか一部分に細かい毛があるかないか、それが今年のびたところか去年のものか、というようなことになりますと、私の観察は実に不完全であつて、どっちだったか分からなくなつてしまします。しかもそれによつて、名前がちがうことが分かつた時にはほんとうに残念であります。近いところならもう一度引きかえして、一本の植物のある部分だけを確かめに出かけてもいいという気持ちになります。

このことは、昆虫だの、小鳥だのでもそうで、ずいぶん注意をはらつて見たつもりでも、細かい記述のある書物と自分の記憶とをつき合せてみると、必ずといつてよいくらいあいまいなところが出てきます。ところが、普通私たちがものを見るといふ時には、もつとはるかにあいまいな見方をしていきます。特に私たちが毎日見ているものを、何か急に想い出そうとすると、それがつきり想い出せません。自分の家族の顔なり、親しい友人の顔なりを、紙に向かつて描いてみようと思つたと、絵の上手下手は別にしまして、その顔が頭の中ではちゃんと想い出せるのに、その記憶は実はあやふやで、顔の幅に対して眼がどのくらいだったか、鼻の位置がどの辺にあつたか、それを確信をもって描くことはできません。それですから、これは当たり前なことではありませんけれども、ただ見ることにいいましても、その見方は、ぼんやりと眺めていることから、注意深く観察をすることまで、その段階はいろいろあることを改めて考えていただきたいと思ひます。そして、よく見ることはむしろ**サイゲン**がないということを考えていただきたいのです。

私はしばらく前に、ある地方を旅行しました時に、その地方の小学校の

生徒たちが、**b** 平素観察をしたものの記録が、展覧されているのを見ました。主として理科の勉強に属するものでしたが、そこには、**3** ほんとうに驚くようなものがたくさんありました。その中の一例をお話ししてみますと、これは確か小学校の二年の女の子の観察記録だつたと思いますが、蟻地獄と俗にいわれている、あの軒下や縁の下のような乾いた土のところに見られる、**4** 漏斗形の小さい穴、ウスバカゲロウの幼虫がその中にいて、蟻などがすべり落ちてくるとそれを食べて育っている、あの蟻地獄を見ている時に、ふと気がつく、その中のあるものは穴が浅く、またあるものは穴が深いのです。これをその小学生は不思議に思ひまして、一生懸命観察をしました。そしてただ観察するだけではなしに、その土を取つて来まして、自分の机の平らな板の上にそれをさらさらとこぼして、蟻地獄とは逆に小さな山を造つてみました。すると、蟻地獄の穴の浅いところの土は盛り上り方がひたたくて、穴の深いところの土は高く盛り上りました。そこでさらにその土をよく見ますと、それは土の粒の粗い細かいによることが分かつたというのです。これは何でもないことですが、やはり**4** 大きな発見だと思ひます。その小学生はそれだけでやめずに、それから菌みがき粉だの、ガラスの粉だの、いろいろの粉で盛り上り方をためして、そこにある傾斜と平面との角度を表にして出しているのです。もちろんその角度を測ることなどは、先生の指導があつたものと思いますが、こうした子どもたちの観察の結果が展覧されているのを見ますと、同じ人間の眼をもつて一つのものを見ながら、その注意の向け方で、物はいろいろに見えるばかりでなく、うっかりしているために、私たちはどのくらい貴いものを見そこなっているか、また目の前には常に発見されるべきものがたくさんあることを、改めて思はずにはいられないのです。幼い者の眼だから**5** そういうものに気がつくのだという方がいるかもしれませんが、それはちがうと思ひます。大人はむしろたくさんものを見慣れてしまつてしまし、それよりも、必要であるものしか本気で見ないような、一種のなまけ癖のようなものができてしまつていっているのです。

今「必要」ということを申しましたが、私たちの行為すべては、単に眼で物を見たり、耳で聞いたりするそういうことだけに過ぎず、すべての行為は「必要」といふいわば鞭でたたかれてそれを行っているようなところが多分にあります。空の雲の動きなどをよく見ますのは、大体気象観測の仕事をしている人にかぎられています。普通一般の人たちが雲のようすを気にかけて見る時といへば、気象台から台風が近付いているという警告をうけているとか、その翌日が遠足であるとか、雨に降られては困る仕事がある時とか、そんな場合にかぎられていまして、空を見る必要がなければわざわざそれを注意深く見ることがありません。

そんな具合に、全く理由もないのに、あるいは何かの必要に迫られるこ



ともなしに、私たちが何かをすることは、考えてみまうとじつさに少ないのです。ベルグソンは『時間と自由』とか『創造的進化』とか、また『笑い』などという本を書いたフランスの哲学者であることはご承知と思いますが、ある時のコウエンの中で、この「必要」ということを取り上げまして、普通の人間はみな「必要」によって何かをしている。そしてこの「必要」は物を見る時にはそれをよく見るように仕向けるのではなしに、かえってそれが一種のヴェールになって、物をよく見ることをできなくしてしまうということをいつています。そしてその必要から解放されている人、何の拘束も受けずに物を見ることのできる人が芸術家だという訳です。くどく説明するまでもないと思いますが、例えば、摘み草に行く時に、それが全くどうでもよいリクリエーションの場合は別ですが、摘み取る草だけを一心にさがしていますと、その草原にどんな珍しい花が咲いていまして、かえってぼんやりそこを歩いている時よりも気が付かないだらうと思うのです。

私たちが何もみな芸術家になった方がいいということではありません。けれども、これは私が前々から望んでいることなのですが、ある場合には6 私たちも芸術家の眼をもつて物を見ることがあつてもよいと思うのです。あつてもよいというより、同じ眼を持ちながら、見れば何でもよく見える眼を持ちながら、必要なものと不必要なものとをあつさりで見分けをつけて、見ても仕方のないもの、見たところで一文にもならないものは見ずに済ますことがあたかも賢明であるように思い込んでしまうことは、実は

問一 本文中の太字のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 a 往往にして b 平素 のここの意味として、もつともふさわしいものをそれぞれ次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- a 往往にして …… ア しばしば イ たまたま ウ ゆくゆく エ だんだん
b 平素 …… ア 元々 イ 普通に ウ 日頃 エ 単純に

問三 1 それ の指している内容を本文中から十字以内で探し、抜き出して答えなさい。

問四 2 それと分かる とありますが、何が分かるというのですか。もつともふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア その植物の本性
イ その植物の部分
ウ その植物の特徴
エ その植物の種類

問五 3 ほんとうに驚くようなもの とありますが、この記録のどのような点に驚かされたのですか。もつともよくあてはまるものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 小学生たちが学校で習った知識をもとにして、観察と実験を何度もくり返してまとめた点。
イ 小学生たちが大人も思いつかないような高度なレベルの観察と実験を、自分たちで行ってまとめた点。
ウ 小学生たちが普段見過ごしてしまうことをいいねいに観察した上に、実験までして追究してまとめた点。
エ 小学生たちが都会ではふれられない自然を楽しみ、主体的に観察と実験をしてまとめた点。

問六 4 大きな発見 とありますが、どのような「発見」をしたのですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

非常におろかなことなのは、1 ないかと思ひます。いったい見ても仕方がないという判断は、それほど確かなものなのでしょうか。第一、そういう風に、生活の中から、自分で不必要なものと決めこんで、1 切り捨て、必要なものだけがいいという態度、それはいかにも味気ないように思われます。その人は、自分の生活をそれによってゴウリカしているつもりかもしれませんが、おそらく、2 と一日一日をすごし、そのことをどこかで嘆いたりこぼしたりしているにちがひありません。「どうも暇というものがないので、春になったからといって花見に出かける訳にもいかず……」という人、その人は乗り物に乗っている時、乗り物を待っている時、ほんのわずかの暇もないという訳でもありますまい。往来を横切るその瞬間に、あるいは電車の中で目を閉じてしかめ面をしてい1 ないで、「必要」という鎖を自分から解いて窓の外を見れば、建て込んだ屋根の向こうの空にも、通りすぎるせまい路地の間にも、あるいはその電車の中にも、人の顔のどこかにも見るべきものはたくさんあると思ひます。そこに何かを見付け出して、それがせかせかと追われている毎日の仕事の苦勞を3 と忘れさせるに足るものであることが必ずあると思ひます。単に眺めているだけの時は、7 人の眼は小さな曇った鏡にすぎないことになり

（串田孫一「見ることについて」『緑の色鉛筆』より）

【注】

- 1 漏斗……口の細いものに液体を入れるときに使う、アサガオ形の道具。
2 ヴェール……ペール。女性が頭にかぶるうすい布。おおいかくすもの。



問七 ⁵ 5 そういふもの とありますが、どのようなものですか。本文中の言葉を使って十五字以内で説明しなさい。

問八 本文中の **ア** **ウ** **エ** の **ない** のうち、はたらきのちがうものを一つ選び、記号で答えなさい。

問九 ⁶ 私たちも芸術家の眼をもつて物を見ることがあつてもよい とありますが、「芸術家の眼をもつて物を見る」とはどのような物の見方ですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問十 本文中の **1** **3** にあてはまる言葉をそれぞれ次の **ア** **カ** から選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

ア どんどん **イ** はきはき **ウ** くつきり **エ** さつぱり **オ** あくせく **カ** てきぱき

問十一 ⁷ 人の眼は小さな曇つた鏡にすぎない とありますが、どういふことですか。本文の内容をふまえ、もつともよくあてはまるものを次の **ア** **エ** から選び、記号で答えなさい。

ア 人はどのように心がけても、正確に物事を見ることはできないということ。
イ 人はついつい、一定の決まった見方によって物事を見てしまうということ。
ウ 人は自然に、美しいものや貴いものに目がいくことがさけられないということ。
エ 人は細部まで突きつめて見ようとすると、まちがった見方をしてしまうということ。



二次の文章を読んで後の問いに答えなさい。答えは黄色の解答用紙に書きなさい。字数の指定のある問題は、句読点も一字と数えます。

興味深いことには、方々でめぐり会った¹これらの品物は、それがどんなに美しい場合でも、一つとして作った人の名を記したものはありません。時として^{注1}何地名産とか、^{注2}何々堂製などと貼り紙のついている場合もありますが、個人の名はどこにも記してありません。

1 近世の「美術品」と呼ばれているものを見ますと、どれにも皆銘が書き入れてあります。または落款が押してあります。銘というのは作りの名であり、落款というのはその名を記した^{注3}印形であります。たとえどんなつまらない作品にも、^{注4}何某の作ということが記してあります。

ここに面白い対比が見られます。一方は名など記す気持ちがなく、一方は名を書くのを忘れたことがあります。なぜこんな相違が起るのでありましょうか。要するに一方は職人が作るものであり、一方は美術家が生むものだからであるといわれます。前者は多くの人たちの作り得るものがあり、**後者**はある個人だけが作り得る作品だからであります。しかしこのことは、とかく前者を卑しめ、後者をのみ尊ぶ風習を醸しました。

2 職人の作ったものは平凡であり、美術家の作るものは非凡であると思われるからであります。どんな品物も銘がない場合に、その市価が落ちるのは常に見られる現象であります。ですが²こういう見方は果たして当を得たものでありましょうか。

私たちは無名の職人だからといって軽んじてはなりません。大勢の工人たちが作り得るものだからといって、蔑んではなりません。なぜならたとえ彼らが貧しい人々であり、作るものが普通のものであろうとも、大きな伝統の力に支えられていることを見逃すわけにゆきません。**3** 彼ら自身は小さくとも、伝統は大きな力であります。それが彼らに仕事をさせているのであります。のみならず彼らの多くは辛棒強く^{注5}年期奉公を経て、腕を磨いてきた工人たちであります。その腕前には並ならぬ修行が控えています。どんなに平凡に見えても、誰にでもすぐできる技ではありません。

それに仕事を疎かにしないのは、職人の**キンツ**でさえありました。

3 彼らにも仕事への誇りがあるのです。ですが自分の名を誇ろうとするのではなく、正しい品物を作るそのことに、もつと誇りがあるのであります。いわば品物が主で自分は**A**なのであります。それゆえ一々名を記そうとは企てません。こういう気持ちこそは、もつと尊んで

よいことではないでしょうか。実に多くの職人たちは、その名を留めずこの世を去ってゆきます。しかし彼らが親切にこしらえた品物の中に、彼らがこの世に生きていた意味が宿ります。彼らは品物で勝負をしているのであります。物で残ろうとするので、**B**で残ろうとするではありません。

彼らの多くは教育も乏しく、**シキケン**ももたない人たちでありましょう。しかし正直な人であり⁴信仰の人であることはできたのであります。自分独りでは力が乏しかったとしても、祖先の経験や智慧に助けられて力ある仕事を為し得たのであります。伝統への従順さは彼らの仕事を確実なものにしました。彼らがもし自分の力にのみたよって歩いたら、きつと踏みはずしたりつまずいたりしたでありましょう。荒波を一人で漕いで横切ることは、難しいからであります。ですが**他力**に任せた時、ちょうど帆一ぱいに風をはらんで⁵滑らかに走る船のように安全に港に入ることができたのであります。私たちは自力の道のみが道でないことを知ります。

工人たちはわが名において仕事をする**C**たちではありませんでした。しかしわが名を棄ててかかる彼らの道にも、驚くべき仕事保障されていることを知らねばなりません。この世では貧しい職人たちも、美の国では高い位を得ている場合が、決して少なくないであります。

この世の人たちは、名を記す必要のない品物の値打ちを、もつと認めねばなりません。そうして自分の名を誇らないような気持ちで仕事をする人たちのことを、もつと讃えねばなりません。そこには邪念が近づかないでしょう。ですから⁶無心なものの深さに交じり得たのであります。この世の美しさは無名な工人たちに負っていることが、いかに大きいであります。
(柳宗悦『手仕事の日本』より)

【注】

- 1 何地名産……どの土地の産物
- 2 何々堂製……どの店の製品
- 3 印形……はんこ
- 4 何某……誰々
- 5 年期奉公……数年間住み込みで働くこと

問一 本文中の太字の**カタカナ**は漢字に直し、**漢字**は読みをひらがなで答えなさい。

問二 **1** それらの品物 とありますが、本文を読んでいくと何を指しているかわかりますか。本文中から十字以内の言葉を探し、抜き出して答えなさい。

問三 本文中の **1** **3** にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

ア また イ なぜなら ウ もしくは エ ところが オ それゆえ



問四 2 こういう見方 とありますが、この「見方」にあてはまらないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 特定の人が作ったものの方が、多くの人たちが作ったものよりも尊ばれるという見方。
- イ 職人の作ったものよりも、美術家の作ったもののほうが優れているという見方。
- ウ 銘や落款の入っていない品物は、値段が安くなるという見方。
- エ 多くの人が作ったものの中にこそ、価値のあるものがあるという見方。

問五 3 彼ら自身は小さくとも とありますが、どのような点で小さいのでしょうか。あてはまらないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 無名の職人である点
- イ 自分の銘を入れたがる点
- ウ 貧しい人々である点
- エ 普通のものを作っている点

問六 A にあてはまる漢字一字を考えて書きなさい。

問七 B にあてはまる漢字一字を本文中から探して書きなさい。

問八 4 信仰の人 とありますが、それはどのような人ですか。本文中の言葉を使って「人。」に続くように答えなさい。

問九 5 滑らかに走る船のように安全に港に入ること とありますが、どのようなことを言っているのですか。もっともよくあてはまるものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 工人たちの仕事がいっかりと確かなものとなること。
- イ 工人たちの仕事がある一定の地位を得ること。
- ウ 工人たちが自分の仕事をたたえる気持ちを持つこと。
- エ 工人たちが自分の力のみで仕事を終えること。

問十 C にあてはまる言葉を本文中から五字以内で探し、抜き出して答えなさい。

問十一 6 無心なものの深さに交じり得た とありますが、「無心なものの深さ」とはどのような境地のことですか。本文の内容をふまえて説明しなさい。



一 サイゲン

コウエン

ゴウリカ

問一

問二 a

b

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九 答えは 国語一三の解答らんに書きなさい。

問十 1

2

3

問十一

二 後者

問一

キシツ

シキケン

他力

問二

問三 1

2

3

問四

問五

問六

問七

問八

人。

問九

問十

問十一

